



2024-25年度 国際ロータリーのテーマ

# HIROSHIMA KUKO Rotary Club Weekly-Report

会長 小島 勘次 副会長 岡田 雄幸 幹事 兼田 昌紀 SAA 松下 知美

広島空港ロータリークラブ  
2024-25 2025年4月5日発行

事務局 三原市本郷南6丁目3-26 三原臨空商工会2F  
TEL 0848-86-0986 FAX 0848-86-0992  
E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp  
例会場 広島エアポートホテル(TEL 0848-60-8111)

2710地区 上田文雄ガバナー 信条

行動しよう、未来のために。=変革に取り組もう=

本日のプログラム(4月5日)

IM (ホスト：尾道東RC)

次回のプログラム(4月9日)

澤井 一徳会員  
「NASA GAME ～月面からの脱出」

## 第1330回 2025年3月26日 例会記録

点 鐘 小島会長  
ロータリーソング「それこそロータリー」

### 出席報告

|              | 会員数<br>シニア会員 | 出席者 | メイク | 欠席<br>(免除) | 出席率   |
|--------------|--------------|-----|-----|------------|-------|
| 本日<br>(3/26) | 30<br>2      | 21  | 2   | 3<br>4     | 85.19 |
| メイク          | 住田・鶴田幸彦      |     |     |            |       |

### 食事時間



- ・先付け オクラのおかか和え
- ・造り サーモンのお造り  
あしらひ
- ・揚げ物 カキフライ  
サラダ
- ・御飯 白御飯  
香の物 一色  
汁物 一口うどん

### 会長ひと言



皆さま、本日もお忙しい中、第1330回広島空港ロータリークラブ例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

3月も終わりに近づき、年度末の慌ただしさを感じる時期となりました。年度のまとめや新年度の準備など、それぞれのお立場でご多忙のことと存じます。私自身も、いくつかの事業で新たなスタートに向けて準備を進めておりますが、改めて「節目」というものの大切さを実感しております。

さて、ロータリーの活動もこの1年を振り返りながら、次年度へとバトンを渡す時期に入っていました。今年度、我がクラブが取り組んできた奉仕活動や、会員同士の親睦を通じて得られた多くの学びと喜びに、私は心から感謝しています。

また、今年度のテーマである「変化を恐れず、未来に挑む」という言葉の通り、クラブの在り方や地域との関わり方についても、新たな視点で見直すことができました。特に会員増強や若い世代

への働きかけについては、まだ道半ばではありますが、皆さまのご協力のもと、着実に前進している手ごたえを感じています。

来月以降は、次年度の役員の皆さまを中心に、新たな体制づくりが本格化してまいります。私たち一人ひとりが、クラブの未来を支える力として関わり続けることができれば、広島空港ロータリークラブはさらに魅力ある存在となることでしょう。

今後とも、皆さまの変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げ、簡単ではございますが、本日の会長挨拶とさせていただきます。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

幹事報告



【回覧】

- ・4月の例会出欠表

【その他】

- ・4月2日(水)の例会はありません。4月5日(土)のIMに変更となりますのでご注意ください。
- ・IMにご参加の方は、公共交通機関をご利用いただくか、お車の場合は、できるだけ乗り合わせてお越しください。

卓話時間

「小早川隆景という戦略家」

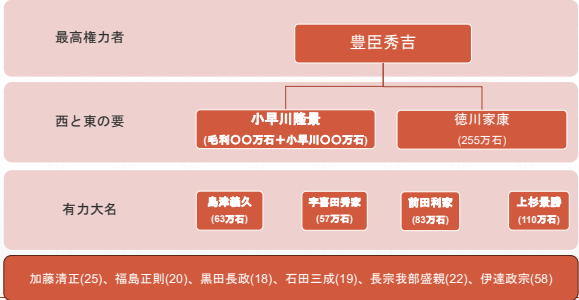


七川 雅仁会員

小早川隆景という戦略家

どれだけすごいのか小早川隆景！

豊臣政権の勢力図



- ・豊臣秀吉からは「日本の西は小早川隆景に任せれば全て安泰である」と評価された。ちなみに東は徳川家康である。

秀吉は隆景を、この世で正しく政を行える政治家でもあったと評価している。

## 勢力図



2025年



2025年

## 小早川隆景を知るための基礎知識

- ①小早川隆景は、吉田郡山城で**毛利元就**の三男として生まれる。
- ②竹原小早川家の第14代当主(12)となり、後に沼田小早川家も承継(17)。
- ③小早川家が毛利一門となり、**小早川水軍**として活躍するようになる。
- ④**毛利両川**として毛利氏の発展に尽力し、豊臣政権下では**五大老**の一人に任じられた。
- ⑤(吉田郡山城⇒)木村城(12)⇒高山城(18)⇒新高山城(19)⇒三原城(1582年/49)
- ⑥小早川秀秋(高台院の兄の子)を養子とする。
- ⑦1533年生まれ1597年死没



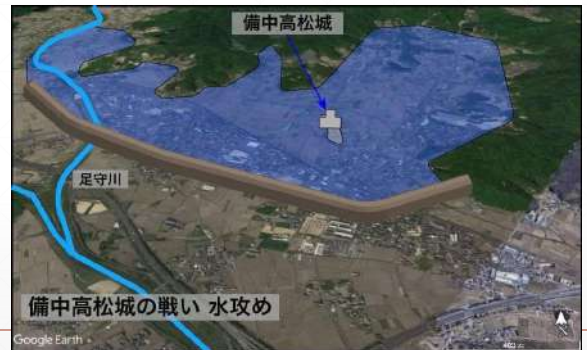
2025年



## キーポイント

- 水軍の活用
- ビジョンと戦略をもっていた
- 秀吉の存在

2025年



## 有名な戦い

- ①「**敵島の戦い**」(1555年/22歳) ➡**水軍!**
  - ✓ **大内氏**(陶晴賢)との決戦 ~下剋上の戦い
  - ✓ 小早川水軍(乃美宗勝)と**村上水軍**で勝利
- ②「**月山富田城の戦い**」(1566年/33歳)
  - ✓ 宿敵**尼子氏**を滅ぼす
- ③「**木津川口の戦い**」(1576年/43歳) ➡**水軍!**
  - ✓ 石山本願寺を支援、**織田**方の水軍を破る!
  - ✓ 第二次合戦(1578年)で鉄甲船に敗れる
- ④「**備中高松城の戦い**」(1582年/49歳)
  - ✓ 毛利勢救援➡**秀吉**の水責め➡和睦
  - ✓ 毛利氏に本能寺の変を秘し、秀吉中国大返し

2025年

## 豊臣政権下

- 四国攻め。秀吉から**伊予一国(35万石)**を与えられる(1585年/52) ➡隆景、湯築城へ(本拠は三原のまま)
- 九州征伐(1586年) ➡秀吉から**筑前・筑後の国(30万石)**を与えられる
- 筑前国**名島城**に入城(1589年) ※博多近くの海側でやはりここでも水軍の拠点。
- 小田原征伐(1590年) ➡秀吉天下統一
- \*\*\*\*\*
- 朝鮮出兵(1592年~1598年) ➡三原城も大改修
- 秀秋**を養子とし、三原城に迎える(1594年)
- 1595年、**五大老**となる(徳川家康、毛利輝元、**小早川隆景**、前田利家、宇喜多秀家)
  - ➡小早川隆景+上杉景勝
- その後、秀秋に家督を譲り、三原城に移り、三原城にて死去(1597年/65歳)
- 豊臣秀吉死去(1598年)

2025年



2025年



2025年

## エピソード

- 本能寺の変が起きて信長が死去すると、秀吉は明智光秀討伐のため、毛利方に本能寺の変を秘したままで和睦を結び、畿内へ引き返した（中国大返し）。なお本能寺の変を伝える報せが毛利方にもたらされ、毛利氏の将士は秀吉に欺かれたとして一斉に奮起し、好機乗すべしと隆景に迫って秀吉との誓約を破棄し、追撃して京都に攻め込むことを願い出た。しかし、隆景は、「**藍紙の血痕未だに乾かないうちこれを破るのは武士の恥**」として、将士の激昂を抑えてこれを許さなかったとされるが（『吉川文書』『川角太閤記』『陰徳記』）、実際のところは兵力からいっても、毛利の中国大前進、大追撃は無理であったのが実情である。
- 九州征伐にも参加し、戦後に秀吉から筑前・筑後・肥前1郡の37万1,300石を与えられた。しかし隆景は毛利・吉川・小早川三氏の所領は中国において既に8ヶ国に及んでおり、更に領国を加えると公役を十分勤めることができないとし、これを辞退しようとした。これに対して秀吉は、それならば筑前・筑後を豊臣家の蔵入地とし隆景をその代官にしようとしたが、隆景は重なて辞退した。輝元はなお若く、元春もすでに死去していることから、**毛利家の家運を維持するためにも輝元の側を離れて九州に住むことはできない**と。そのうえで、筑前・筑後には他の領主あるいは代官を置いて政務にあたらせ、隆景は**佐々成政**と交代で1年もしくは半年ずつ在陣して九州の鎮定に当たればどうだろうか、提案。しかし隆景の辞意は認められず筑前・筑後を領して在国することになり、これは隆景が独立大名として豊臣政権のもとに組み込まれていく契機でもあった。

2025年

## 俗説ですが

「今年は倒幕の機はいかに！」

2025年

## エピソード

- 輝元は40歳近くになっても息子がいなかったことから、秀吉は秀秋を毛利家の養子にしよう隆景に相談したが、隆景は血縁関係のない秀秋が毛利家を継ぐことを心配し、すでに輝元の従弟・毛利秀元を養子に内定していることを秀吉に告げた。隆景は、この件で秀吉が毛利氏を疎んじて輝元に不利があることを恐れて、自ら秀吉に請うて秀秋を養子として家を譲ったのである。
- 隆景の伊予支配についてルイス・フロイスは、「隆景は深い思慮をもって平穏裏に国を治め、日本では珍しい事だが、伊予の国には騒動も叛乱も無い」と記している（『フロイス日本史』）。
- 隆景は黒田如水に対し、「貴殿はあまりに頭がよく、物事を即断即決してしまうことから、後悔することも多いだろう。私は、貴殿ほどの切れ者ではないから、十分に時間をかけたうえで判断するので、後悔することが少ない。」と指摘した。如水は隆景の計報に接し、「これで日本に賢人はいなくなった」と嘆いたという（『名将言行録』）。
- 「分別とは何か」と質問した黒田長政に対し、「長く思案して遅く決断する。分別の肝要は仁愛で、仁愛を本として分別すれば、万一思慮が外れてもそう大きくは間違わない」と答えた（『名将言行録』）。
- 隆景は甥の毛利輝元に対して極めて厳格に接し、時には輝元を折檻したこともあった。それも隆景が毛利氏の将来を思う一念から出たもので、決して輝元を軽視したのではなく、常に輝元へは宗家の主人として仕え敬った。

2025年

【主な参考文献】  
「小早川隆景のすべて」  
（新人物往来社編 1997年発行）

2025年